

松坂屋コレクションの服飾文化史的研究

A Cultural and Historical Study on the Matsuzakaya Collection

五味 良子*¹⁺, 佐野 尚子*¹⁺, 田中 綾乃*²⁺, 荘加 直子*²⁺
Ryoko Gomi*¹⁺, Naoko Sano*¹⁺, Ayano Tanaka and Naoko Shoka*²⁺

*1 名古屋市博物館 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1

Nagoya City Museum,

1-27-1 Mizuho-dori, Mizuho-ku, Nagoya City, Japan

*2 松坂屋美術館

Matsuzakaya Art Museum

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract: The Matsuzakaya Collection is a general term of the textile collection which the Matsuzakaya Department Store gathered in the early Showa period. The collection has been, however, unopen to the public because it has been used as the design resource of Matsuzakaya's products. Therefore, the detail is yet to be clarified. In the year 2010, the collection was moved to Nagoya. On this occasion, we conducted academic research in order to examine its position as a textile collection. Collected under the peculiar purpose, the collection counts about 10,000 pieces. This research focused on the 52 selected superior *kosodes*. As a result, we found a number of examples which embody the history of textiles and transition of *kosode*. In addition, the collection's unique character was revealed.

要旨: 松坂屋コレクションは、松坂屋が呉服制作のデザインソースとして、昭和初期に蒐集した染織コレクションの総称である。呉服の自社デザインの図案制作に利用されたため、今までその全貌は明らかにされてこなかった。今回そのコレクションが名古屋に移設されることを機に、学術的な調査研究を行い、染織コレクションとしての位置づけを探ることにした。特異な蒐集目的から残された作品は約1万件にのぼる。この研究では、その内小袖に的を絞り、優れた作品 52 領を選定して行った。調査の結果、染織史や小袖の変遷を物語る作品が幾つも見られただけでなく、他のコレクションにはない、デザインソースという蒐集スタンスであったが故の、松坂屋コレクション独自の特徴を見出すことができた。

*1) ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp

配当決定額

平成 22 年度	500,000 円
平成 23 年度	500,000 円
合計	1,000,000 円

研究の目的

京都の旧松坂屋京都染織参考館で蒐集された染織関係のコレクション(小袖・能装束・帷子・帯などの衣裳や裂地が中心)は、質・量ともに日本の服飾文化史を研究する上で重要なものである。しかし、呉服デザインの参考資料として社外秘の扱いであったため、ほとんどの資料は未調査のままで、具体的な内容は明らかになっていなかった。平成 19 年に経営統合した大丸松坂屋の業務見直しにより、平成 22 年、コレクションが京都から松坂屋が母体の財団である J.フロントリテイリング史料館と名古屋市博物館に移管された。

このコレクションの蒐集は昭和 6～15 年頃の短い期間に、松坂屋の社員によって、主にデザイン図案の参考になりそうな作品に的を絞り、戦略的に行われた。その中には、時代の典型とされる作品はもちろん、その過渡期といわれる様式の作品や、型にはまっていない作品も存在する。そうした点をふまえて、コレクションを調査し、基本データを整備することが本研究の目的である。そして小袖の変遷を検証し、将来的には染織文化の拠点になることを目指す。平成 22 年度の研究は、コレクションの中の優品の小袖 16 領、23 年度は 36 領について基礎的な調査を行い、資料を保存・公開・活用していくためのデータを収集することを目的とする。

研究の方法

松坂屋コレクションのうち小袖の具体像を明らかにするため、江戸時代の小袖 52 領(別紙表 1 参照)を選定した。選定基準は、技法、模様、質、保存状態等のいずれか、あるいは複数の面で優れた作品とした。これらについて基礎調査を実施し、外部有識者を招いて資料の検討を深め、資料の基本データを整備する。また、松坂屋コレクションの今後の展示公開や保存を整えるため、染織品の所蔵施設で保存環境や展示方法に関する聞き取り調査を行う。

研究の実施計画

【平成 22 年度】

調査対象小袖のうち 16 領について、基礎調査を行い、武蔵大学丸山伸彦教授を招致して、資料を検討し、基本データを蓄積した。染織資料の保存や展示方法について、東京国立博物館・東京文化財研究所・共立女子大学・文化女子大学・国立能楽堂など染織関係資料の所有施設で聞き取り調査を行った。調査対象の一部は、3 月に松坂屋美術館、名古屋市博物館で展示公開した。

平成 23 年 1 月 17 日～19 日	3 日	染織関係資料所蔵施設での調査	東京 東京国立博物館、東京文化財研究所、共立女子大学、文化女子大学、国立能楽堂
	数日	松坂屋コレクションの計測	名古屋 松坂屋美術館、名古屋市博物館
平成 23 年 2 月 23 日～25 日	3 日	武蔵大学丸山教授と松坂屋コレクションの検討	名古屋 松坂屋美術館、名古屋市博物館

平成 23 年 3 月 5 日	1 日	平成 22 年度研究修了者による共同研究発表会の見学	東京 文化女子大学
平成 23 年 3 月 7 日	1 日	服飾文化学会への参加	東京 お茶の水女子大学
平成 23 年 3 月 16 日	1 日	小袖～近世服飾の華～展の見学	奈良 奈良県立美術館

【平成 23 年度】

調査対象小袖のうち残りの 36 領について、基礎調査を行い、共立女子大学長崎巖教授、東京芸術大学の福島雅子氏を招致して、資料の検討をし、基礎データを蓄積した。また、9 月に行われた「第 35 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会 染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」に参加した。この集会では、有形の「染織品」よりも議論が十分なされていない無形の「染織技術」に焦点が当てられ、国内外の染織品作成の技術者、染織品修復技術者、学芸員、研究者などさまざまな立場の専門家が講演した。多角的な視点での研究アプローチや染織品の修復・収蔵についてや、染織品と切り離せない染織技術の研究の重要性など、松坂屋コレクションの研究や保存修復についての視野を広めることができた。また、調査対象作品の一部が展示された、京都文化博物館の特別展「京の小袖—デザインに見る日本のエレガンス」を見学した。対象作品に多く見られる友禅染の技法のついて学ぶため、京都の染技連(手描友禅の職人や工芸家の団体)を訪ね、友禅染の糸目糊置きの過程、色挿しの過程を見学した。

平成 23 年 4 月 24 日	1 日	福島雅子氏と松坂屋コレクションの検討	名古屋 松坂屋美術館、名古屋市博物館
平成 23 年 7 月 29 日	1 日	「藤島武二・岡田三郎助展～女性美の競演～」展の見学	横浜 そごう美術館
平成 23 年 9 月 3 日～5 日	3 日	「第 35 回文化財の保存と修復に関する国際研究集会染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」の参加	東京 東京国立博物館
平成 23 年 11 月 6 日～8 日	3 日	共立女子大学長崎教授と松坂屋コレクションの検討	名古屋 松坂屋美術館
	数日	松坂屋コレクションの計測	名古屋 松坂屋美術館
平成 23 年 11 月 22 日	1 日	京都文化博物館特別展「京の小袖—デザインにみる日本のエレガンス」の見学と、友禅の技法(糸目のり・色挿し)の現場見学	京都 京都府京都文化博物館、染技連
平成 24 年 2 月 13 日	1 日	共同研究「松坂屋コレクションの服飾文化史的研究」に関し、染織史研究の第一人者である共立女子大学・長崎教授と意見交換	東京 共立女子大学
平成 24 年 3 月 2 日～3 日	2 日	平成 23 年度研究修了者による共同研究発表会の報告	東京 文化学園大学

研究の成果

蒐集の経緯

松坂屋コレクションとは、昭和 6～15 年頃に京都に呉服仕入部門をおいた旧松坂屋京都染織参考館が蒐集した染織コレクションの総称である。呉服の自社デザインの図案制作に利用され、その全貌は社外秘のため、明らかにされてこなかった。今回の研究では、松坂屋コレクションの中でも小袖に焦点を当て検証を試みた。まず、コレクション蒐集の 3 つの特徴を述べる。

- (1) 松坂屋の社員が自社の発展のための経営戦略として集中的に蒐集していた。蒐集対象は小袖はもちろん、能装束など衣装類やその裂地、外国の染織品など幅広い。

- (2) 蒐集の目的が呉服デザインのためであったことから、デザインとして良いものを選んでいただようと思われる。
- (3) 蒐集された年代については、野村正治郎や吉川観方をはじめとする個人コレクターがこぞって作品を蒐集していた頃である。

これら3つの要素から、松坂屋コレクションは他のコレクションにみられない作品が存在し、小袖の時代検証を行う上で今までみられなかった作品があるといえる。また、時代の過渡期の作品や、流行の変遷がわかるような作品を見つけ出すこともできた。これらのことを踏まえ、研究対象として 52 領を選び、その中での特徴を検証していこうと考えた。

松坂屋コレクションの特徴

松坂屋コレクションの小袖 52 領を 2 年間調査した結果、特に注目すべき項目を 4 つ指摘することができる。(1) 様式の移行期に作られたと見られる作品、(2) 友禅染の展開を示す優れた作品群、(3) 墨絵の小袖作品、(4) 引き続き調査をしていく必要性のある作品、である。

(1) 様式の移行期に作られたと見られる作品

松坂屋コレクションには、様式の変化をたどる際に指標となる、過渡的・中間的な作品が含まれている。

慶長小袖から寛永小袖へと変化する中間地点を示す貴重な作品に、《黒紅綸子地摺箔雲丸鷹羽模様小袖(作品 No487)》、《紅綸子地震葵鹿子模様小袖(作品 No652)》および《紫綸子地藤丸模様小袖(作品 No276)》がある。《黒紅綸子地摺箔雲丸鷹羽模様小袖(作品 No487)》は摺箔で埋め尽くした黒紅の地無の綸子地、緊密な刺繍、具象・抽象モチーフの混在、という慶長小袖に見られる特徴を備えている。しかし地を染め分けることなく、左肩から右裾へと流れる曲線状の模様構成の上では寛文小袖に近い。地無し的小袖は寛文年間まで残っていたとされるが、そうした事実を裏付ける作例とも言えよう。



Fig.1 *Kosode* with design of cloud rounds and eagle feathers in *kanoko shibori* dyeing and impressed gold foil on black figured satin. 黒紅綸子地摺箔雲丸鷹羽模様小袖(作品 No487)

《紅綸子地震葵鹿子模様小袖(作品 No652)》は、徳川秀忠の娘・千姫(1597[慶長 2]年~1666[寛文 6]年)の菩提寺に伝わったといわれる打敷直しの小袖である。唐草模様など細密な刺繍の要素は慶長小袖的であるものの、紅の総鹿子絞りの仕立ては寛文小袖の特徴に似る。水平方向に広がる雲取りによる段と、そこから上へと伸びる水葵の葉による構図が珍しい。水葵の模様から、寛文小袖の様式が確立する以前の徳川家周辺の女性が所用したものと見られる。

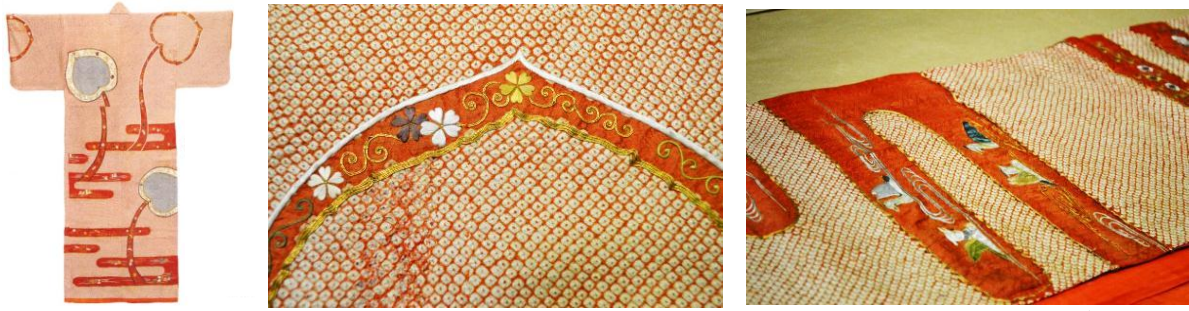


Fig.2 Kosode with design of monochoria in *kanoko shibori* dyeing on red figured satin. 紅綸子地震葵鹿子模様小袖(作品 No652)

《紫綸子地藤丸模様小袖(作品 No 276)》は従来のモチーフの選択や刺繍の表現に慶長小袖の要素を留めるが、デフォルメされた輪状の藤の花房の模様や、小粒の鹿子絞りが占める面積が大きい点、構図の点などは寛文小袖的である。また松の模様の大きさも、慶長小袖によく見られるものよりは大きく、続く寛文小袖においてさらに大きくなっていくことを予感させる。



Fig.3 Kosode with design of wisteria rounds in *kanoko shibori* dyeing and embroidery on purple figured satin. 紫綸子地藤丸模様小袖(作品 No276)

これらは、細密な模様による複雑な区画構成の慶長小袖から、大柄の模様による明確な構図の寛文小袖へと至る変遷を考える上で、重要な手がかりとなる。

また、《玉子縮緬地菊楼閣模様小袖(作品 No101)》は、江戸時代の茶屋辻の展開を考える上で興味深い作品である。麻地に藍で模様を表し、わずかに刺繍をそえる茶屋染と同様の手法を、縮緬地に用いた作品である。ただし模様の面では、山水や楼閣を緊密に描き込む武家女性の茶屋辻と異なり、18世紀の町人の間で流行した、より大柄の散らし模様に近い。技法の面から考えて、武家の茶屋辻に準ずるものとするか、模様をかながみて町人の友禅染から発生したものとするか、判断が分かれるところである。素材が縮緬地である点からも保守的な武家の所用と考えるより、町人の所用と見なすべきだろうか。宝永・正徳年間前後の、武家の小袖と町人の小袖の分化を考えていく上でも、注目すべき作品であると言えよう。



Fig.4 *Kosode* with design of wild chrysanthemums and garden pavilion in *yuzen* dyeing and embroidery on light tan crepe. 玉子縮緬地菊楼閣模様小袖(作品 No101)

《白縮緬地橘熨斗蝶模様小袖(作品 No391)》は、18 世紀後半から 19 世紀前半の特徴を持つ作品である。蝶の模様の配置は 18 世紀後半の元禄小袖の名残があるものの、金糸のまつり糸が赤である点や縮緬の地紋が大つくりな点は 19 世紀の特徴を示している。



Fig.5 *Kosode* with design of an orange tree and folded paper butterflies in embroidery on white figured satin. 白縮緬地橘熨斗蝶模様小袖(作品 No391)

(2) 友禅染の展開を示す優れた作品群

友禅染作品群は 52 領中 24 領あり、松坂屋コレクション中の作品は、糸目が細かく、線に力のある質の高いものが多い上、初期から全盛期まで、幅広いバリエーションを備えている。

友禅染が現れた初期は、既存のデザインを踏襲したものであったことは、すでに知られている。既存のデザインとは左腰の部分に若干の空白が見られる構図で、立木もしくは、上下で模様が表されるデザインと、技法でいうと縮緬地に型鹿の子と刺繍で模様を表したものである。ちょうど《白縮緬地菊瀧模様小袖(作品 No35)》がそれにあたる。この小袖の構図はそのままに、技法を友禅染にした形が、《萌葱縮緬地立浪牡丹蝶模様(作品 No76)》である。縮緬地に友禅染と刺繍で表されており、ぼかしは見られるものの、色が比較的少なく単色づかいで、初期の友禅染の特徴といえる。



Fig.6 *Kosode* with design of chrysanthemums and water falls on white figured satin. 白縮緬地菊瀧模様小袖(作品 No35)



Fig.7 *Kosode* design of peonies and waves in *yuzen* dyeing on moss-green crepe. 萌葱縮緬地立浪牡丹蝶模様小袖(作品 No76)



同じく初期と思われるものに《白鬱金平絹地幟模様小袖(作品 No990)》が挙げられる。これについては、『当流七宝常盤ひいなかた』1700(元禄 13)年や『正徳ひな形』1713(正徳 3)年に類似する図案がある。



Fig.8 Kosode with design of banners on white yellow plain-weave silk. 白鬱金平絹地幟模様小袖(作品 No990)



Fig.9 『当流七宝常盤ひいなかた』

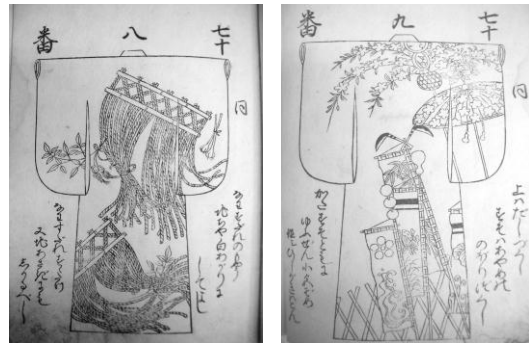


Fig.10 『正徳ひな形』

続いて、《薄黄縮緬地縦縞流水紅葉橋和歌文字散模様小袖(作品 No89)》のように、ぼかしやグラデーションを多く使い、またモチーフ同士を重ねることで、より立体的な表現が生まれてくる。



Fig.11 Kosode with design of red maple, stripes and calligraphy in yuzen dyeing and embroidery on tan crepe. 薄黄縮緬地縦縞流水紅葉橋和歌文字散模様小袖(作品 No89)

そして《白綸子地京名所模様小袖(作品 No 81)》《白縮緬地京名所模様小袖(作品 No 262)》のように、風景や人物を描き込む友禅染独自の絵画的な表現に発展していった。特に後者では友禅染の明確な輪郭線と、絞り染めによる紫色のにじみの表現の間で、あえて対照的な質感を求めており、友禅染の持つ特色を最大限に引き出している。このように松坂屋コレクションの小袖からは、こうした友禅染の発展を辿ることができる。



Fig.12 *Kosode* with design of red maple, stripes and calligraphy in *yuzen* dyeing and embroidery on tan crepe.

白縮緬地京名所模様小袖(作品 No 81)

Fig.13 *Kosode* with design of Fushimi Inari shrine and calligraphy in *yuzen* dyeing on white crepe.

白縮緬地京名所模様小袖(作品 No 262)

一方で、《白縮緬地住吉模様小袖(作品 No 613)》のような作例は、友禅染で絵画的に表現されていても不思議のない名所模様を、あえてすべて刺繍で表現した作例であり、18 世紀中頃の町人の関心が刺繍へも向いていたことを示す。



Fig.14 *Kosode* with design of Sumiyoshi-shrine on white figured satin. 白縮緬地住吉模様小袖(作品 No 613)

18 世紀後半で見られるようになる白上げの友禅染の特徴を持つものには、たとえば《紺紗綾地渚貝模様小袖(作品 No471)》が挙げられる。全体に貝や蝶をあしらった小さな模様を散らし、白上げに控えめに色挿している。これについては、『雛形染色の山』1732(享保 17)年に類似する図案がある。

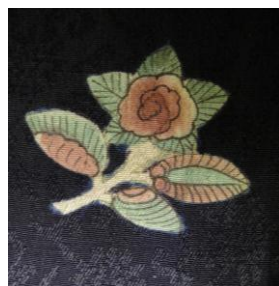


Fig.15 *Kosode* with design of butterflies and shells among waves in resist dyeing on dark blue twill. 《紺紗綾地渚貝模様小袖(作品 No471)》

Fig.16 『雛形染色の山』

以上のように、今回の調査を通して、コレクションには友禅染の変遷をたどる上で、典型的なものと同渡的なものも含まれていることがわかった。コレクション全体でも同様の発見が少なからず期待できるとい

え、引き続き調査を行い、その全貌を把握することが必要である。

(3) 墨絵の小袖作品

コレクションには完形としての類例が少ない墨絵の小袖も含まれる。《白綾子地近江八景墨絵模様小袖(作品 No679)》では、18 世紀より流行した名所図絵を文人画風の筆致で描いた例が見られる。また、岩や雉などの描出に絵画技法を応用した《白縮緬地墨絵模様小袖(作品 No190)》のような作例からは、18 世紀前半の絵手本の流通により、狩野派などの画法が小袖の絵師たちにも浸透していたことがうかがえる。



Fig.17 Kosode with design of eight scenes of Omi in hand painting on white figured satin. 《白綾子地近江八景墨絵模様小袖(作品 No 679)》



Fig.18 Kosode with hand painting on white crepe. 《白縮緬地墨絵模様小袖(作品 No 190)》

(4) 引き続き調査をしていく必要性のある作品

最後に検証を重ねた結果、時代判定が難しくなった作品を紹介する。《白紵地菊繫模様小袖(作品 No667)》にも後に加えられたと思われる鹿子絞りが見られ、寛文小袖に似たデザインながらも菊の模様の配置の点で不自然さが見出された。一部が後補か、全体が後世の模作の可能性も含めて検討する必要があるだろう。



Fig.19 *Kosode* with design of chrysanthemums in *kanoko shibori* dyeing and embroidery on white plain-weave silk. 白紬地菊繫模様小袖(作品 No667)

また総鹿子絞りの《紫綸子地菱文大菊模様小袖(作品 No459)》も一見寛文小袖のようなデザインであるが、寛文小袖に認められる模様構成の躍動感が感じられにくく、紫色の色調も同時代のものと比較して化学染料のように鮮やかであり、あるいは寛文小袖を做って後の時代に作られたものかとも考えられる。



Fig.20 *Kosode* with design of large lozenges and chrysanthemums in *kanoko shibori* dyeing on purple plain-weave silk. 紫綸子地菱文大菊模様小袖(作品 No459)

《紅紬地流水菊模様小袖(作品 No352)》は『都ひいなかた』1691(元禄4)年に類似の図案があり、また総鹿子絞りで一見、寛文小袖に見受けられる。だが、寛文スタイルの特徴である逆C字形でなく、S字のような模様の連なりや、色の褪色具合、切付の状態など不自然さが見受けられた。



Fig.21 *Kosode* with design of running water and chrysanthemums in *kanoko shibori* dyeing and embroidery on red plain-weave silk. 紅紬地流水菊模様小袖(作品 No352)

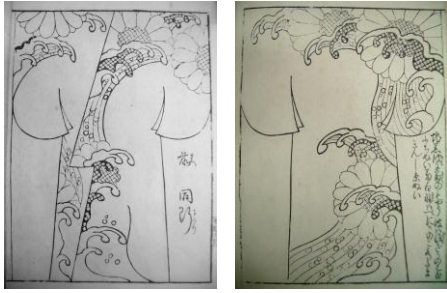


Fig.22 都ひいなかた

これらの作品についても今後さらに調査を進め、日本の他のコレクションには見られない小袖の変遷を細かく分類していきたいと考えている。

以上のように、松坂屋コレクションは現存すること自体が貴重な作品、および技法を概観できる優品の小袖を多数含む単一のコレクションとして、染織史研究において重要かつユニークなものであるといえよう。個別作品のさらなる検討、他所属のコレクションとの比較調査が待たれる。なお、今回の対象資料は松坂屋美術館で開催された「松坂屋コレクションー技を極め、美を装うー」展(2011年3月5日～4月10日)、京都文化博物館で開催された「京の小袖ーデザインに見る日本のエレガンス」展(2011年10月29日～12月11日)などでも活用された。

主な発表論文等

[図録]

田中綾乃「松坂屋コレクションの活用」『松坂屋コレクションー技を極め、美を装うー』展覧会図録、2011年
 田中綾乃「岡田三郎助の裂地」『藤島武二・岡田三郎助展 女性美の競演』展覧会図録、2011年
 荘加直子「岡田三郎助の着物」『藤島武二・岡田三郎助展 女性美の競演』展覧会図録、2011年

[口頭発表]

五味良子 早稲田大学きもの学講座「松坂屋コレクションのきもの」2011年12月
 佐野尚子 社団法人全日本きもの振興会 きもの文化講座 「松坂屋コレクションにみる小袖の数々」
 2012年3月

[展覧会]

松坂屋美術館 「松坂屋コレクション展ー技を極め、美を装うー」(2011年3月5日～4月10日)
 名古屋市博物館「松坂屋コレクションの小袖・裂・美術工芸品」(2011年3月5日～5月29日)

参考文献

1. 内山政雄:「江戸時代刊行の『小袖雛形』の研究報告」: *日本古書通信*, No.208, pp.3-8 (1961)
2. 河上繁樹:「江戸時代前期の小袖ー慶長小袖から寛文小袖へー」: *月刊文化財*, No.228, pp.27-34 (1982)
3. 河上繁樹:「慶長小袖の系譜ーその成立と展開」: *東京国立博物館研究誌*, No.383, pp.4-15 (1983)
4. 河村まち子 吉中淑江:「江戸時代の小袖製作年代判定についてー小袖雛形本を手掛かりとしてー」: *風俗*, Vol.33, No.3, pp.4-15 (1995)

5. 北村哲郎:「染織における江戸初期—慶長繡箔考—」: *東京国立博物館研究誌*, No.271, pp.4-13 (1973)
6. 北村哲郎:「小袖と友禅染」: *東京国立博物館研究誌*, No.139, pp.18-20 (1962)
7. 切畑健:「茶屋染と友禅染抄」: *月刊文化財*, No.289, pp.28-33 (1987)
8. 長崎巖:「寛文小袖再考—『寛文小袖』の意味と位置づけ」: *国華*, No. 1314, pp. 11-30 (2005)
9. 長崎巖:「初期『友禅染』に関する一考察—『友禅染』の出現とその背景—」: *東京国立博物館紀要* No.24, pp.85-162 (1989)
10. 長崎巖:「江戸時代中期の小袖意匠—小袖意匠における元禄期の意味—」: *東京国立博物館研究誌* No.417, pp.4-29 (1985)
11. 長崎巖:「染織資料としての小袖模様雛形本—小袖模様との関係を中心に—」: *東京国立博物館研究誌* No.373, pp.20-30 (1982)
12. 花園ソラン:「友禅染とその創案者について—友禅ブランドの商略—」: *ファッションビジネス学会論文誌* Vol.15, pp.79-89 (2010)
13. 馬場まみ:「東福門院御用雁金屋注文帳にみる小袖に関する一考察—地色黒紅を中心に—」: *日本風俗史学会誌* No.17, pp.25-38 (2001)
14. 古家愛子:「小袖における描繪模様について—墨絵模様を中心に—」: *服飾美学* No.49, pp.37-54 (2009)
15. 丸山伸彦:「近世前期小袖意匠の系譜—寛文小袖に至る二つの系統—」: *国立歴史民族博物館研究報告* Vol.11, pp.195-245 (1986)
16. 山辺知行:「小袖染織における地と文様について」: *東京国立博物館研究誌* No.188, pp.24-28 (1966)
17. 女子美術大学、長崎巖、NHK プロモーション(監修): *江戸KIMONO アート きもの文化の美と装い*、東京美術、(2011)
18. 京都国立博物館:「花洛のモード—きもの時代」展図録: (2001)
19. 京都文化博物館:「京の小袖—デザインにみる日本のエレガンス」展図録: (2011)
20. 国立歴史民俗博物館:「近世きもの万華鏡—小袖屏風展」図録: (1994)
21. 国立歴史民俗博物館:「江戸モード大図鑑—小袖文様にみる美の系譜」展図録: (1999)
22. 名古屋市博物館ほか:「小袖 江戸のオートクチュール 松坂屋京都染織参考館の名品」展図録: (2008)
23. 松坂屋美術館:「松坂屋コレクション 技を極め、美を装う」展図録: (2011)

■ なお、小袖が制作されたと見られる時代表記については、松坂屋染織参考館で設定した以下の区分を採用した。

江戸時代前期: 元和～貞享年間 (1615～1688)

江戸時代中期: 元禄～寛延年間 (1688～1751)

江戸時代後期: 宝暦～慶応年間 (1751～1868)

Table1 対象小袖一覧

NO.	管理No	枝番	名称	江戸時代	技法	模様	雛形本発行年代	雛形タイトル	類似模様
1	276		紫綸子地藤丸模様小袖 (後片見頃)	前	鹿子紋、刺繍	松、藤の丸、蝶、道			
2	352		紅就地流水菊模様小袖	前	鹿子紋、刺繍	流水、菊	元禄 11 年(1698)	都雛形	
3	359		白綸子地梅樹鉄線屏風檜扇模様小袖	前	型鹿の子、刺繍	鉄線、檜扇、屏風、梅、笹、松、宝尽くし	*元禄 4 年の再版		
4	459		紫綸子地菱文大菊模様小袖	前?	総鹿子紋	菊			
5	475		白綸子地菊扇面模様小袖 (後分)	前	鹿子紋、刺繍	扇面、菊、籬			
6	486		紫綸子地車輪模様小袖 (前身分)	前	総鹿子紋	車輪			
7	487		黒紅綸子地摺箔雲丸鷹羽模様小袖	前	鹿子紋、摺箔、刺繍	雲の丸、鷹の羽、巴、鶴亀、菊唐草			
8	652		紅綸子地霞水葵鹿子模様小袖	前	鹿子紋、刺繍	水葵、貝、鶯書、唐草、小花			
9	667		白就地菊繫模様小袖	前?	鹿子紋、刺繍、絞り	菊			
10	42		白綸子地牡丹蘇鉄模様小袖 (後身分)	前・中	鹿子紋、刺繍	扇、蘇鉄、牡丹			
11	43		白綸子地牡丹蘇鉄模様小袖 (上前分)	前・中	鹿子紋、刺繍	扇、蘇鉄、牡丹		源氏雛形	中巻 22 「蘇鉄模様」
12	107		浅葱縮緬地梅垣垣萬歳楽文字模様小袖	前・中	友禪染、刺繍、型鹿の子	梅、垣、立木模様、萬歳楽文字	元禄 13 年(1700)	当流七宝常盤ひいなかた	中巻 145
13	108		鬱金綸子地桜扇面模様小袖	前・中	型鹿の子、刺繍	扇面、桜、矢来			
14	35		白綸子地菊瀧模様小袖	中	型鹿の子、刺繍	菊、滝			
15	76		萌葱縮緬地立浪牡丹蝶模様小袖	中	友禪染、刺繍、白上げ	牡丹、蝶、浪			
16	81		白綸子地京名所模様小袖	中	友禪染、刺繍、墨絵	京名所(清水寺、音羽の滝、法観寺五重塔)			
17	86		浅葱薄黄染分縮緬地御座舟舳草梅笠模様小袖	中	友禪染、刺繍、白上げ	御座船、舳草、梅笠			
18	87		紅紗綾地芝垣梅模様小袖	中	型鹿の子、友禪染、刺繍、描絵	羽狩紋、丸大紋、柴垣、梅	元禄 13 年(1700)	当流七宝常盤ひいなかた	上巻 130
19	89		薄黄縮緬地縦流流水紅葉歌文字散模様小袖	中	友禪染、刺繍、絞り(つかみ絞り)、銀泥	紅葉、流水、橋、縦流、桜			
20	93		白縮緬地松樹梅鶴模様小袖	中	友禪染、刺繍、絞り	梅、松、鶴(親子)			
21	101		玉子縮緬地菊棧間模様小袖	中	友禪染、刺繍、型鹿の子	菊、棧間、檜垣、竹藪、秋草			
22	110		白綸子地梅樹詩歌文字模様小袖	中	型鹿の子、刺繍	桜、丸紋?			
23	170		薄茶縮緬地鉄線流水杜若模様小袖	中	友禪染、白上げ、刺繍	鉄線、杜若、流水、蝶			
24	190		白縮緬地沙汲模様小袖	中	描絵、染め	東屋、芦、船、人物、雉子、千鳥、沙汲			
25	261		玉子縮緬地茶道具生花模様小袖	中	友禪染、刺繍	茶道具、生け花			
26	262		白縮緬地京名所模様小袖	中	友禪染、刺繍、絞り	京名所(伏見稲荷か)、文字(「稲なり山…」)			
27	263		白縮緬地庭園流水杜若模様小袖	中	友禪染、刺繍、絞り、ひき染め	たんぼぼ、杜若、紅葉、梅、松、若松、竹、杉、流水、懸樋、庭園、家屋、橋、蘇鉄、道具、万年青、かりがね、ききょう、すすき、南天、なでしこ?			
28	265		白縮緬地雲松菊蕨模様小袖	中	友禪染、刺繍、絞り	雲、松、蕨、藤丸に蝶紋			
29	266		白綸子地雪輪梅樹春草模様小袖	中	絞り、刺繍	たんぼぼ、つくし、梅、笹、蕨、外春草(れんげ、すみれ、すすしろ、すぎな)			
30	365		白縮緬地萩模様小袖	中	絞り、友禪染、刺繍	萩			
31	367		緋綸子地石畳鉄線文様	中	友禪染、型鹿の子、刺繍、墨絵、絞染	石畳、鉄線			
32	431		白就地椿模様小袖	中	刺繍	椿	元禄 9 年(1696)	太平雛形	上巻
33	432		白綸子地梅結文模様小袖	中	型鹿の子、刺繍	梅の枝、結び文			
34	433		紅綸子地手箱模様小袖	中	鹿子紋、刺繍	手箱、松竹、梅、薄萩、菊	元禄 5 年(1692)	余情雛形	「手箱模様」
35	491		紅縮緬地宝船模様小袖	中	友禪染、刺繍、絞り	宝船、吉祥文			
36	526		紅縮緬地幔幕模様小袖	中	友禪染、型鹿の子、刺繍	幕、梅、葵			
37	613		白綸子地住吉模様小袖	中	刺繍	住吉模様			
38	621		紅綸子地松竹梅模様小袖	中	刺繍	松(若松)、竹、梅			
39	668		白綸子地河原撫子模様小袖	中	鹿子紋、型鹿の子、刺繍	流水、蛇籠、撫子	元禄 16 年(1703)	花鳥雛形	141 「いせき」
40	676		白縮緬地波梅見立模様小袖	中	友禪染、刺繍	梅、流水			
41	679		白綸子地近江八景模様墨絵小袖	中	墨絵、型鹿の子(黄返し)	近江八景、雲			
42	680		濃萌葱縮緬地鉄線唐草模様小袖	中	友禪染、刺繍	鉄線、唐草			
43	682		納戸縮緬地近江八景大名行列模様小袖	中	友禪染、刺繍	近江八景、大名行列			
44	716		紫濃萌黄染分縮緬地柳水葵模様小袖	中	友禪染、絞り	水葵、おもたか、柳、5 つ紋			
45	990		白鬱金平絹地幟模様小袖	中	友禪染、刺繍、板縮染、ぼかし染め	網罟籠に燕の伊達紋、幟(端午の節句?)	元禄 11 年(1698) 元禄 13 年(1700) 正徳 3 年(1713) 正徳 3 年(1713)	和国雛形大全 当流七宝常盤ひいなかた 正徳ひな形 正徳ひな形	下巻 109 中巻 175 巻四 78 「たますたれのもやう」 巻四 79 「あやめのはたつくし」
46	31		玉子浅葱染分縮緬地ハッ橋菊模様小袖	中	友禪染、刺繍	ハ橋、菊、葵、杜若、蕨			
47	769		白綸子地流水山吹模様小袖	後	型鹿の子、刺繍、墨絵	流水、山吹			
48	471		紺紗綾地浴貝模様小袖	後	友禪染	蝶、貝、海草	享保 17 年(1732)	雛形染色の山	中巻 164 「嵐干」
49	697		紅縮緬地杜若鉄線燕模様小袖	後	刺繍	燕、鉄線、杜若、雲			
50	391		白綸子地橘熨斗蝶模様小袖	後	刺繍	橘(立木模様)、熨斗蝶			
51	649	□	紫縮緬地間垣草花燕模様小袖	後	刺繍	燕、薔薇、雲、垣根			
52	420	A	納戸綸子地牡丹折枝模様小袖	後	鹿子紋	牡丹			